能力診断プログラムとは

現在、多くの研修会社が能力診断プログラムを提供していますが、ここで解説をするものは、「外部のプロ」が対象者に対して多面評価をする診断プログラムです。

これらの研修プログラムは、人材アセスメントやヒューマン・アセスメント、またはマネジメント・アセスメントなどという名称で呼ばれており、受講者の潜在能力を評価し、顕在化させ、個人と企業の人材開発に結び付けるためのアプローチがなされています。

ここで言う能力診断プログラムとは、仕事をする際に必要な「潜在能力」を受講者が現在どの程度持っており、また将来的にはどのように発揮されていくかを発見する手法です。

●能力診断の方法・・・現実の業務遂行場面を再現し、シュミレーションを通じて能力の分析を行います。

つまり、複数の擬似的な演習課題に取り組んでもらって、そこから得られる情報により、各人が持っているマネジメント能力を診断しようとするものです。

それらの演習課題は心理学をベースに設計されており、特殊な行動観察技法に基づいて、プロの観察者が観察と評定を行います。

Q1. 企業にはメリットがあるのですか？

企業サイドから見た場合、次のようなメリットがあります。

(1)選抜（Selection）　・・・　目標とする職務に対する適正な登用をするために行われます。

(2)能力開発（Development）　・・・自分自身の学習成果はもちろん、共通の演習課題に取り組みながら他のメンバーの言動や行動、成果物を見ることによって、参加者同士の相互啓発をするために行われます。

(3)診断（Inventory）　・・・　通常の人事考課とは異なる観点を持っている診断の外部プロが、総合的かつ適性な能力診断をするために行われます。

Q2. 果たして公平な評価ができるものなのですか？

そのためには次のような観点が必要です。

（1）一人の主観で決定されないようにしなければなりません。
そのためには、複数の 評定者によって能力評価が実施されます。

（2）演習によって得意・不得意に左右されることのないように、
性質の異なった複数の演習を用いて行われます。

●評定者が観察と診断をする際には、憶測を排除し、演習場面に表現された事実だけを積み上げていくことになります。

複数のプロの評価者が、演習を通じて発見される事実を基にしていろんな角度から多面的に診断していくことになる訳です。

Q3. 演習課題について教えてください。

使用される演習課題は、実際の仕事の状況を再現するものとして設計されています。
例えば次のような場面を想定して設計しています。
（A）会議・ミーティング⇒グループ討議
（B）上司面談⇒面接演習
（C）実務処理⇒インバスケット演習、ケーススタディ

このような演習を行ってもらい、その場面を観察をしている外部の診断プロが多面的に評価することになります。

次の演習課題を解説します。

演習課題（1）・・・・グループ討議

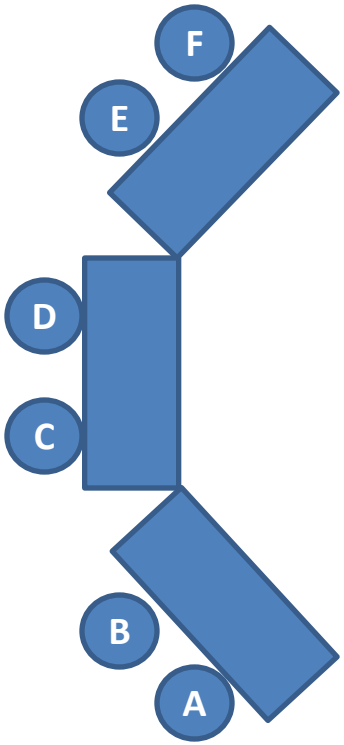
演習課題（2）・・・・面接・面談

演習課題（3）・・・・インバスケット

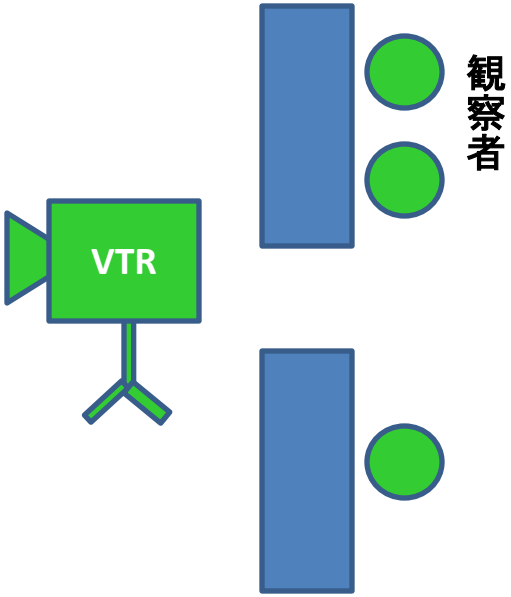
演習課題（4）・・・・分析＆プレゼン

演習課題（1）

●グループ討議演習



６名のグループ討議
の代表的な配置です。



グループ討議演習

・ふつう5人～7人までの参加者で行います。

・グループ討議には次のようなものがあります。

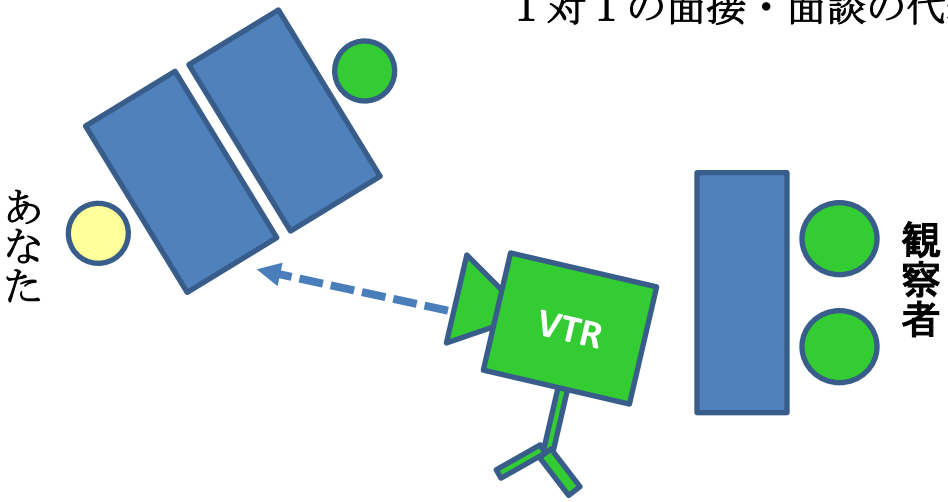
（グループ討議A）
いくつかの問題状況が配られ、受講者が同じ立場（第三者的立場）に立ち、決められた時間内で答えを出すもの。

（グループ討議B）
受講者に一定の役割が与えられたもの。受講者は設定の中で、利益代表者としての役割を与えられます。
さらに自分自身の目標を追求しながら、グループ全体の目標を討議して、決められた時間内に答えを出すもの。

演習課題（2）

●面接･面談

１対１の面接・面談の代表的な配置です。



面接・面談

相手役と1対1で行われます。
対人場面での説得、指導、交渉などを想定しています。
部下または関係者との1対1の面接を行うことで、対個人場面におけるコミュニケーション能力の行動傾向を診断します。

面接・面談の進め方

別の演習課題（例えばインバスケット問題）を処理している時に、
同時並行で行われるケースが一般的です。
１人ずつ別室に行き、順番に1対1の面接を行うことになります。

相手役は多くの場合、観察者となります。

面接を始めるにあたっては課題を読み込む準備時間が 与えられます。演習の内容次第ですが、10分程度が多いようです。

一定の準備時間が終了すると、別室に行き、待ち構えている
相手役（観察者）と面談が開始されます。

面接時間は、通常10分間です。
2分前に予鈴なりの合図が送られることもあります。

演習課題（3）

●インバスケット

処理
- 指示
- 連絡
- メモ
- 心づもり・・・

インバスケット

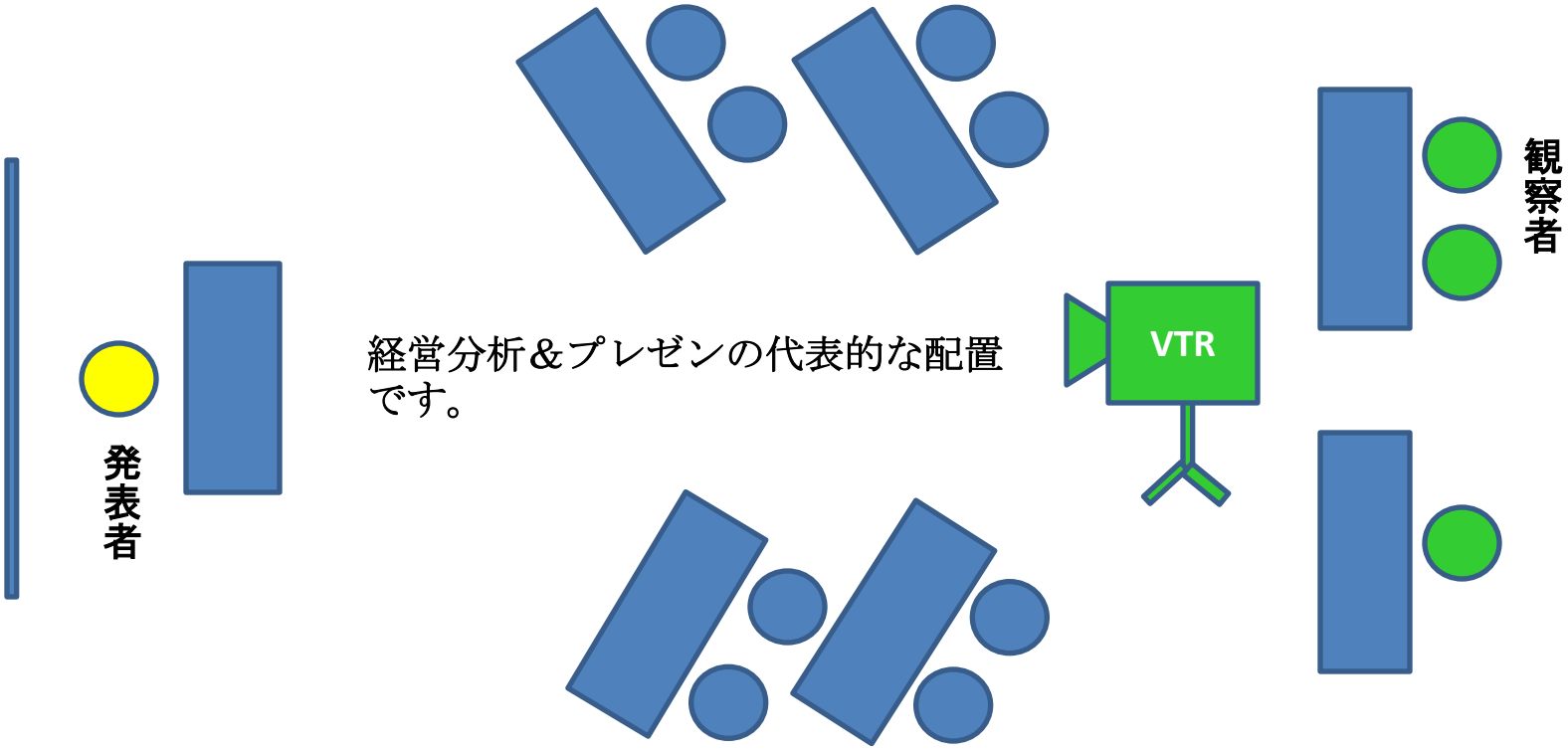
目 的
個人で行う仕事の場面における行動傾向を診断することが目的となります。

内容
20件ほどのいろいろな種類の未処理の案件が与えられます。この未処理の案件をインバスケット（未決箱と呼ぶ）といいます。

この案件について、管理監督者として設定された立場や状況の中で、問題や課題を発見・抽出し、相応しい解決処理を行うことになります。

演習課題（4）

●経営分析＆プレゼン



経営分析＆プレゼンの代表的な配置です。

経営分析＆プレゼン

（１）設定された立場や役割に立ち、与えられた経営情報を整理し、分析を行ってプレゼンテーション資料を準備します。

準備時間は通常２時間ほど、場合によっては数時間に及びます。

（２）分析を行って準備した資料を基にし、聴き手（部下、関係者、顧客など）を前にプレゼンテーションを行います。

（３）プレゼンテーション場面におけるスキルや行動傾向を診断します。